

### 問1: 下線部①の内容

- ・正解: ④ 芸術家は自らを取り巻く現実を描いているという考え方

- ・選択肢の和訳:

1. 現実世界は芸術作品から影響を受けているという考え方
2. 芸術家は作品を通して世界に働きかけているという考え方
3. 現実世界と芸術はお互いに作用しあっているという考え方
4. 芸術家は自らを取り巻く現実を描いているという考え方

- ・解説: 第1段落にて、オスカー・ワイルドが「芸術家は周囲の現実を描写するという一般に認められた見解 (the accepted view)」に異を唱えている記述がある。直後の "Instead..." 以降がワイルド自身の持論であるため、下線部はその前の「一般的な考え方」を指す。

### 問2: 下線部②の意味

- ・正解: ② characters

- ・選択肢の和訳:

1. stories(物語)
2. characters(登場人物)
3. images(画像・イメージ)
4. storytellers(語り手)

- ・解説: 直前の文にある「社会ののけ者 (social outcasts)」を指して、"These lonely, awkward figures (これらの孤独で不器用な人物たち)" と述べている。

### 問3: 下線部③はどのような作品の例か

- ・正解: ③ 主人公が残酷な状況下でもがく様子を描く作品

- ・選択肢の和訳:

1. 悲嘆に暮れる主人公が復讐する姿を描く作品
2. 主人公が自分探しの旅に出る様子を描く作品
3. 主人公が残酷な状況下でもがく様子を描く作品
4. 社会に馴染めず落ちぶれていく主人公を描く作品

- ・解説: アンデルセンの物語が「社会から軽蔑され、\*\*過酷な環境 (cruel circumstances) \*\* の中で理解を得ようともがく者」を扱っていることの具体例として、本作が挙げられている。

#### 問4: 空所④に入る語

- ・正解: ④ Eventually

・選択肢の和訳:

1. Ideally(理想的には)
2. Reluctantly(嫌々ながら)
3. Lately(最近)
4. Eventually(最終的に)

・解説: アヒルの巣で生まれた白鳥の子が、成長のプロセスを経て\*\*「最終的に(Eventually)」\*\*優雅な白鳥になるという時間の流れを示す語が最適である。

#### 問5: 下線部⑤の理由

- ・正解: ② Andersen went through hardships young people could relate to.

・選択肢の和訳:

1. アンデルセンは若い頃、他の子供たちを馬鹿にしていた。
2. アンデルセンは、若者が共感できるような苦難を経験した。
3. アンデルセンはその外見のせいで俳優になる夢を諦めた。
4. アンデルセンは若者がいじめを克服するのを助けるために懸命に働いた。

・解説: アンデルセン自身が外見への強い自意識やいじめ、孤独を経験しており、その背景が若者の\*\*共感(identify with)\*\*を呼ぶ物語を書けた理由であると説明されている。

#### 問6: 下線部⑥が指す作品

- ・正解: ④ The Ugly Duckling

・選択肢の和訳:

1. The Emperor's New Clothes(裸の王様)
2. The Little Match Girl(マッチ売りの少女)
3. The Nightingale(小夜鳴鳥)
4. The Ugly Duckling(みにくいアヒルの子)

・解説: アンデルセンは「自分の人生を反映した最も有名な作品(best-known work)」を自伝的だと述べた。直前で彼を「みにくいアヒルの子」に例えている文脈からも明らかである。

#### 問7: 空所⑦に入る語

・正解:② poverty

・選択肢の和訳:

1. prosperity(繁栄)

2. poverty(貧困)

3. power(権力)

4. illness(病気)

・解説: アンデルセンの家庭が「決して裕福ではなかった(far from rich)」こと、および例示された『マッチ売りの少女』が描く「貧しい少女(poor young girl)」の内容から「富と貧困(poverty)」の対比となる。

問8: 下線部⑧の内容

・正解:② 馬鹿な人や仕事ができない人

・選択肢の和訳:

1. 他人を馬鹿にする人や常識に欠ける人

2. 馬鹿な人や仕事ができない人

3. わがままな人や他人の言うことを聞かない人

4. 人を見る目がない人や変わった人

・解説: 劇中の服は「愚かな者(stupid people)や仕事を適切にこなせない者(those who cannot do their jobs properly)」にしか見えない設定であり、王や家来たちが「そう思われたくなかった対象(these things)」はこれを指す。

問9: 下線部⑨の内容

・正解:① アンデルセン自身が幼い頃、デンマーク国王が神聖であるかのように扱われている様子を見た経験

・選択肢の和訳:

1. アンデルセン自身が幼い頃、デンマーク国王が神聖であるかのように扱われている様子を見た経験

2. アンデルセンが作家になったばかりの頃、従者たちに囲まれているデンマーク国王の様子を見た経験

3. アンデルセン自身が幼い頃、当時のデンマーク国王が変わった衣服を身につけている様子を見た経験

4. アンデルセンが、デンマーク国王に向かって叫び声をあげる幼い子どもを見た経験

- 解説: 周囲の大人が王を神のように扱う中で「彼は人間にすぎない」と述べた\*\*実体験(childhood experience)\*\*を、物語の結末のヒントにしたと記されている。

問10: 下線部⑩が指す人物として不適当なもの

- 正解: ② the woman who wrote the letter found on Andersen's body

- 選択肢の和訳:

1. アンデルセンが生涯で最も愛したと言われる女性
2. アンデルセンの遺体で見つかった手紙を書いた女性
3. アンデルセンが物語を書くインスピレーションを与えた女性
4. アンデルセンの物語からニックネームを得た女性

- 解説: 遺体から見つかった手紙は「数十年前に愛した最初の少女」からのものであり、その後に登場するジェニー・リンドとは別人である。したがって②が誤り。

問11: 空所⑪に入る語

- 正解: ③ Instead

- 選択肢の和訳:

1. Nevertheless(それでもかかわらず)
2. However(しかしながら)
3. Instead(代わりに)
4. Otherwise(さもなければ)

- 解説: 皇帝が本物の鳥の歌声に飽き、その\*\*代わりに(Instead)\*\*機械の鳥を聴き始めたという文脈が適当。

問12: 下線部⑫と同じ用法のdid

- 正解: ④ I did study hard for the final exams last weekend.

- 選択肢の和訳:

1. あなたは課題をよくやったと思う。(一般動詞の過去形)
2. その生徒は昨日パーティーに来なかつた。(否定文の助動詞)
3. あなたはその映画をあまり楽しまなかつたですよね? (付加疑問)
4. 私は先週末、期末試験のために本当に一生懸命勉強した。(強調の助動詞)

- 解説: 下線部⑬の "did come true" は、動詞comeを強調する助動詞である。④も同様に動詞studyを強調している。

#### 問13: 下線部⑭の意味

- 正解: ② Because

- 選択肢の和訳:

1. Therefore(それゆえに)
2. Because(なぜなら／～なので)
3. Meanwhile(その一方で)
4. However(しかしながら)

- 解説: 文頭のForは、前の文の内容(物語が現実になったこと)の理由を説明する等位接続詞(というのも～だからだ)として機能している。

#### 問14: 下線部⑮が指す作品

- 正解: ③ The Nightingale

- 選択肢の和訳:

1. The Emperor's New Clothes(裸の王様)
2. The Little Match Girl(マッチ売りの少女)
3. The Nightingale(小夜鳴鳥)
4. The Ugly Duckling(みにくいアヒルの子)

- 解説: ジェニー・リンドの歌声がショパンを救ったエピソードが、本作の内容(鳥の歌が死の淵の皇帝を救う)を予見していたと述べられている。

#### 問15: 本文の内容と一致するもの

- 正解: ③ アンデルセンは、生い立ちに恵まれず悲しみの多い人生を送ったとされている。

- 選択肢の和訳:

1. アンデルセンは晩年、それまでの自分の人生を振り返り、自叙伝を発表した。
2. 本文中の4作品は、アンデルセン自身の幼少期の経験を基にした作品である。
3. アンデルセンは、生い立ちに恵まれず悲しみの多い人生を送ったとされている。
4. The Nightingaleは、恋愛を題材とし、大人たちの間で特に人気を博した。

- 解説：貧しい家庭環境、孤独、報われない愛、そして生涯を通じての悲しみ(heartache and sadness)が本文全体を通して強調されている。

## 芸術と人生の相互作用

「人生は、芸術が人生を模倣するよりもはるかに、芸術を模倣するものである」と、オスカー・ワイルドは書いた。この名高いアイルランド人作家は、芸術家は自らを取り巻く現実を描写するという、一般に認められた見解に異を唱えていたのである。代わりに彼は、現実世界の出来事は創造的な作品からインスピレーションを得るものであると確信していた。時として、そのプロセスは両方向に作用するようと思われる。

ハンス・クリスチャン・アンデルセンの人生と作品は、その好例である。童話でよく知られるアンデルセンは、史上最も有名で愛されている語り手の一人である。しかし、彼は生涯を通じて、信じられないほどの心の痛みと悲しみを味わった。彼の物語の多くは「社会ののけ者」を主役としていた。これらの孤独で不器用な人物たちは、自らが置かれた残酷な状況を理解しようともがきながら、社会の軽蔑に苦しむのであった。

おそらく最も有名な例は『みにくいアヒルの子』である。これは、不格好な外見のために笑われ、いじめられる、小さく内気な赤ちゃんアヒルの物語である。そのアヒル自身も他のアヒルたちも知らなかつたことだが、実は彼は、誤ってアヒルの巣に転がり込んだ白鳥の卵から生まれたのであった。最終的に、彼は美しい優雅な白鳥へと成長し、その容姿を称賛されることになる。1843年の発表以来、この物語は世界中の不安を抱える子供たちに自信を与えてきたのである。

## アンデルセンの苦難と自己投影

若い人々がこれほど容易に共感できる物語をアンデルセンが書けたことは、驚くにはあたらぬ。青年時代、彼は自分の容姿を痛烈に意識していた。背が高く、腕も脚も長く、鼻は際立って長かった。成長するにつれ、彼は歌や演劇への情熱を抱くようになったが、それらは当時「女の子らしい追求」と考えられていた。ある作家によれば、奇妙な容姿も相まって、このことが原因で彼は他の子供たちから「残酷にいじめられる」ことになったという。しかし、みにくいアヒルの子のように、彼は自分をいじめる者たちを乗り越え、自らの作品を通じて美を生み出すこととなった。後に批評家から自らの人生についての本を書くつもりかと尋ねられた際、アンデルセンはすでに書いたと答えた。彼は自身の最も有名な作品を「自分自身の人生の反映」として挙げたのである。

1805年にデンマークの農村で生まれたアンデルセンは一人っ子であり、孤独な子供時代を過ごした。彼の家族は決して裕福ではなく、彼の最も人気のある物語のいくつかが富と貧困というテーマを扱っているのは驚くべきことではない。例えば『マッチ売りの少女』において、アンデルセンは路上で凍死するままにされた貧しい少女の生活を描いている。彼女は、慈悲の心を持たないよう見える社会から無視されているのである。

## 権力への風刺と実体験

アンデルセンのもう一つの有名な物語『裸の王様』は、この都会の貧困の情景とはかけ離れた世界である。ここでは、アンデルセンは良識を欠いた裕福な人々をからかっている。この物語は、愚かな者や、仕事を適切にこなせない者にしか見えないという不思議な服を、仕立て屋から売りつけられた権力ある統治者を描いている。当然ながら、皇帝もその家来たちも、そのどちらとも思われたくなかつたため、その「服」が完璧に見えると主張した。最後には、一人の子供が「でも、彼は何も着ていないよ！」と叫ぶことで、この馬鹿げた状況に終止符を打つ。いくつかの記述によれば、アンデルセンはこの結末を、デンマーク国王を見たという子供時代の経験に基づかせたという。周囲の大人が王を神であるかのように扱っている中で、若きアンデルセンは「ああ、彼は人間にすぎないんだ！」と述べたと言われている。

## 報われない愛と「予言」

生涯を通じて、アンデルセンは恋愛事に関しては不運であった。彼は数人の女性、そして少なくとも一人の男性と恋に落ちたが、その想いが報われることは決してなかった。彼が1875年に亡くなったとき、数十年前に最初に愛した少女からの手紙が彼の遺体から見つかった。しかし、一人の女性が彼の愛情の中で際立っていた。それがスウェーデンの歌手ジェニー・リンドであり、彼女は『小夜鳴鳥(ナイチングール)』のインスピレーションとなった人物であった。

この物語では、中国の皇帝がお気に入りの鳥の美しい歌声に飽き始め、その代わりに、自分に与えられた機械仕掛けの鳥を聴き始める。皇帝が病に倒れ死に瀕したとき、彼は再び自分の小夜鳴鳥の歌を聴きたいと願う。鳥は戻ってきて、皇帝の命を救うほど甘く歌うのである。

アンデルセンにとって悲しいことに、想いの対象とのハッピーエンドが訪れる事はなかった。しかし、リンドはアンデルセンを非常に好いており、彼を兄のように思っていると伝えていた。ある意味では、『小夜鳴鳥』の詳細は現実のものとなったのである。なぜなら、アンデルセンの物語のおかげで、リンドはやがて「スウェーデンのナイチングール」というニックネームで知られるようになったからである。また、彼女が本当に愛した男性である作曲家フレデリック・ショパンとの関係においても、人生はフィクションを反映しているようであった。ショパンを死に至らしめることになる重病の間、ショパンはリンドに、彼女の歌声が自分の痛みを和らげてくれたと語った。アンデルセンの作品は、作者が決して予期できなかったような奇妙な方法で、未来の出来事を先取りしていたのである。